

【経済学部】 「日本経済の課題とその処方箋を考える」

経済学部のフロンランナープログラムの一つである「日本経済の課題とその処方箋を考える」は、主に、公務員を目指す学生を対象として、実際の公務員の仕事や求められる能力などを説明しつつ、政府が発表している白書を材料に、参加学生と一緒にその内容を確認したり、批評したりして、いわゆる政策を企画・立案するとはどういうことか、を学び、そのことを通じて、日本経済に内包する課題としてどのようなものがあるのか、それを解決するためにはどのようにすれば良いのか、をしっかりと考えてもらうためのプログラムです。

令和6年度においては、6月からプログラムが始まり、公務員を志望する2名の学生が参加してくれました。今回はいずれの学生も観光政策に関心を持っていたことから、政府が作成する白書の中で、観光庁が取りまとめた観光白書を取り上げ、日本における観光の実態がどうなっているのか、その中で、どのような課題が存在しているか、について整理をすることにしました。2名の学生は、9月上旬に、富山県地方創生局観光振興室を訪問し、富山県の観光政策や課題についてヒアリングを行ってもらいました。

本プログラムの最終ゴールは、研究レポートを仕上げることであり、参加してくれた学生のレポートには、日本や北陸地域の観光政策についての自身の考え方がしっかりと書き込まれていました。

3年生になるといよいよゼミが始まります。令和6年度のフロンランナープログラムに限らず、私のプログラムを経て、豊田ゼミの一員になってくれた学生が一定数います。今回、本プログラムに参加してくれた2人の学生のうち1名の学生がこの4月から豊田ゼミの一員になります。本プログラムで得たことは、豊田ゼミの活動でも大いに生かされることと思います。因みに、豊田ゼミでは、3年生を対象に、夏休みの時期に東京訪問を行っています。昨夏は内閣府を訪問しましたが、今夏は観光庁訪問を考えることになるでしょう。



(内閣府でのヒアリングの様子：令和6年8月)